

県立図書館からのお知らせ



音読・朗読 「声に出して言葉を楽しもう」会に参加しませんか

今年度から「声に出して言葉を楽しもう」会という音読・朗読の会を開催しています。声が出やすくなる身体・心ほぐしのウォーミングアップの後、発声をし、詩や俳句短歌、童話などの図書館の書籍を用い、参加者みんなで声をあわせて読んでいきます。毎回一時間程度ですが、とても充実しているせいか、あっという間に時は過ぎていきます。声を出すと気分もスッキリ晴れやかになります。ストレス解消にもってこい。今年度は、今後令和2年3月まで毎月実施いたします。どなたでも参加できますが、事前の申し込みが必要です。是非ご参加ください。

お問い合わせ 県立図書館情報提供担当 ☎0985-29-2972

今後の予定

第4回	第5回	第6回	第7回
12/22日	1/5日	2/11火	3/8日
11:00~12:00	11:00~12:00	11:45~12:30	11:00~12:00
県立図書館2階 研修室	県立図書館2階 研修室	県立図書館2階 研修室	県立図書館2階 研修室

「やまびこ文庫」紹介パネル展を開催します 開催期間 令和元年12月24日(火)~令和2年1月13日(月)まで

移動図書館車「やまびこ」号にたくさんの本を積んで県内の巡回を開始したのが昭和29年1月。長い歴史ののち、平成28年6月からは宅配便を利用して町村図書館・室や山間部の小中学校・特別支援学校に本を配送する「やまびこ文庫」にバトンタッチしました。

「やまびこ文庫」は、BM書庫(市町村配送専用書庫)の資料を活用し、県立図書館から離れた地域の方々の読書普及と読書環境整備を支援することを目的としています。

今回開催するパネル展では、やまびこ文庫の解説に加えて、やまびこ文庫を利用している町村や学校のPR、寄せられたメッセージの紹介など、さまざまな情報を発信します。



「やまびこ文庫」実施要項 利用申込書 (http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/)でダウンロードできます。

「やまびこ文庫」利用に関するお問い合わせ ▶▶▶ 県立図書館普及支援担当 ☎0985-29-2956

●特別整理期間変更のお知らせ●

県立図書館では、蔵書点検等を行うため2月に特別整理期間を定め、連続した休館日を設けています。今年度は2月17日から2月28日までの12日間を特別整理期間とする予定でしたが、当初予定していた作業の一部を来年度実施することとなったため、期間を1日短縮し次の通り変更します。

【特別整理期間】 令和2年2月17日(月)~2月27日(木) 11日間



●県立図書館屋根防水工事のお知らせ●

県立図書館では、施設の老朽化対策を目的とした屋根防水工事を行っています。工事期間中、ご利用の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどお願いします。

【工事期間】 令和2年1月29日(水)まで

県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。 宮崎県

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00~19:00
■児童図書室：9:00~17:00

休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合翌日)
年末年始：12/29~1/4
特別整理期間：2/17~2/27

編集・発行

● 宮崎県立図書館

所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911 (総務・企画課)
FAX ■0985-29-2491 (総務・企画課)
HPアドレス ■http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/



Miyazaki Prefectural Library
宮崎県立図書館情報誌

No.231号
令和元年12月発行

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

- 「みどりの図書館フェスタ」レポート …P1~2
歌人 大口玲子氏講演会、ブックピクニックほか
- 県立図書館トピックス … P3
秋の「読書週間」企画展レポート、
特別展「神々の面(おもて)~面師 本井繁意の世界~」
- 県立図書館からのお知らせ … P4
音読・朗読「声に出して言葉を楽しもう」会ほか

※緑陰通信は県立図書館のホームページ
(http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/)からもご覧いただけます。

『みどりの図書館フェスタ』レポート

11月2日(土)、さわやかな秋晴れの中、「みどりの図書館フェスタ」を開催しました。今年も多くの皆様にお越しいただきました。当日のイベントの様子をご紹介します。

■「大切なあなたへ贈る 私の一冊」大賞受賞者表彰式

「大切なあなたへ贈る 私の一冊」大賞受賞者表彰式を行いました。これは読書離れの傾向が見られる中・高生を中心とした各世代を対象に、本の魅力に触れ、生きる力や創造力を育む機会を提供し、世代をつなぐ読書活動を推進していくため、昨年度より実施している「本で世代をつなぐ」読書活動推進事業の一環です。

今年は、大切な人にどんな本を贈りたいですか?というテーマで150字作文を募集しました。1か月半という募集期間の短さにも関わらず、小学生の部888名・中学生の部1352名・高校生の部391名・一般の部245名・総計2876名から作品の応募がありました。応募いただいた皆様、本当にありがとうございました。書類選考の上、入選者12名・大賞受賞者8名を決定しました。

表彰式では最終選考者である大口 玲子氏より大賞者お一人お一人に向けたコメントが読み上げられたあと、賞状授与・図書カードの贈呈となりました。会場にいた方からは「この事業が意味あることだと改めて感じ、それぞれの想いが込められた作文の魅力が更に引き出されたように感じた」といった感想が寄せられました。入選作品については今後小冊子にまとめて、県内すべての学校に配付予定です。



「本で世代をつなぐ」読書活動推進事業~大切なあなたへ贈る 私の一冊~大賞受賞者

【小学生の部】 敬称略

名前	所属学校名	学年	作品名	贈りたい相手	著者	出版社
中村 結子	綾町立綾小学校	4	ふんふん なんだかいいにおい	お母さん	西巻 茅子	こぐま社
大橋 和	都城市立東小学校	6	三年一組、春野先生!三週間だけのミラクルティーチャー	母親	くすのきしげのり	講談社

【中学生の部】

名前	所属学校名	学年	作品名	贈りたい相手	著者	出版社
渡辺 心菜	串間市立串間中学校	2	おかあさんだいすきだよ	お母さん	みやにしたつや	金の星社
堀之内 愛	宮崎大学教育学部附属中学校	2	マチルダは小さな大天才	母	ロアルド・ダール	評論社

【高学生の部】

名前	所属学校名	学年	作品名	贈りたい相手	著者	出版社
稗島 由花	宮崎商業高等学校	3	カラフル	弟	森絵都	理論社
森田 玲朱	五ヶ瀬中等教育学校	4	カラフル	弟	森絵都	文藝春秋

【一般の部】

名前	所属学校名	作品名	贈りたい相手	著者	出版社
佐藤 優子	綾町	センス・オブ・ワンダー	自然が好きだった友達	レイチェル・カーソン	新潮社
兼行 可奈子	宮崎市	おおきいトンとちいさいポン	息子(小学1年生)	いむむらからずお	偕成社

■歌人 大口玲子氏講演会「本と私」

大賞受賞者表彰式に続き、歌人 大口玲子氏による講演会が行われました。御自身が影響を受けた本や登場人物の紹介や、母親として子どもさんとともに現在読んでいる絵本や本にまつわるエピソード、そして未来の子どもたちのために守るべき平和への思いについてお話いただきました。参加者からは「人がどんな本を読んで、何を受け取り、今に至るか、その生き方への影響が小さくないことが改めて感じられた」「私も愛読していた『若草物語』が取りあげられたことが嬉しい、また読み直したい」「たった一冊の本が人生に大きく影響するということが改めて感じた」「本に会いたくなった」といった感想が多数寄せられました。



■ブックピクニック



総合文化公園内の芝生広場で、公園を訪れた方々に読書を楽しんでいただく「ブックピクニック」を開催しました。この催しは「読書普及協会チーム宮崎」「おふく」の2つの読書団体の方々にボランティアとして運営や本の提供等のご協力をいただいで実施したものです。「幸せについて」「I♥ワン(犬)」等のキーワード毎に、絵本やエッセイ、詩集など数冊ずつ入ったバッグを受付に並べ、中から好きなバッグを選べるようにして、レジャーシートとともに無料で貸出しました。

小さなお子さんやお孫さんと、あるいはお一人でなど、秋の青空の下、それぞれのスタイルで読書を楽しんでおられ、「風を感じ鳥の声を聞きながら本を読み、心が解放された」「気持ちよかった」などの感想をいただきました。



■緑陰コンサート

屋外で第3回緑陰コンサートを行いました。今回は、ホルンとピアノの演奏、読み聞かせや神話の語り等をお楽しみいただきました。

ホルンとピアノの演奏は、クラシックやジブリの曲など子どもから大人まで楽しめる選曲で、会場が一つになって音楽を楽しむ姿が見られました。また、大型絵本の読み聞かせや神話「天孫降臨」と「海幸山幸」の語りも聞いていただきました。

偶然公園に来られていた方も多数参加され、コンサートを楽しみながら、より図書館を身近に感じていただくことができました。

次回は12月22日(日)に「冬のレコードコンサート」を開催予定です。



■優良読書団体表彰伝達式



緑陰コンサート内で、公益社団法人読書推進運動協議会の優良読書グループ表彰伝達式を行いました。

本年度、本県では、綾町の読み聞かせの会「コッコさん」が受賞されました。「コッコさん」は、綾てるは図書館が開館した平成17年6月に結成され、14年の長きにわたり活動を続けている読み聞かせグループです。この功績を称え、当館の中原館長より、賞状と副賞が授与されました。

表彰後は、大型絵本「おじいちゃんのごらくごらく」の読み聞かせを行っていただきました。聴衆にやさしく語りかけられ、会場全体は温かい空気に包まれ、皆でお話の世界を味わうことができました。



■データベース体験講座

今回、初めての試みとしてデータベース体験講座(法律編)を実施しました。第一法規(株)から講師をお招きし、「DI-Law(判例/法令検索)」の利用方法のレクチャーを受け、ご自身の気になる事柄を検索していただくという流れで体験講座を実施しました。初めてデータベースを利用される方ばかりでしたが、「自分の周りの法律問題を曖昧にせず理解できる手段としてとても参考になった」というご意見や、「判例を詳細に見たいときがあったが、その検索方法について教えていただいでよく分かった」「法律の勉強の参考になった」などのご意見をいただきました。「DI-Law」は、全国の司法機関、官公庁等でも導入されている信頼性の高いデータベースです。

当館では、他にも利用可能なデータベースがあり、宮崎日日新聞が提供する「宮日データベース」、「官報情報検索サービス」、「国立国会図書館デジタルコレクション」など様々です。図書資料と併用してデータベースも皆様にご利用いただければと思います。

■県立図書館トピックス

■「秋の読書週間関連企画展」レポート

10月29日(火)から11月10日(日)までの約2週間、1階ギャラリーにて、「読書週間」に合わせて「秋の読書週間関連企画展」を行いました。

「読書週間」が始まったのは、終戦もない1947年(昭和22)年です。戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がっています。

今年度の「読書週間」の標語は、「おかえり、葉の場所で待ってるよ」でした。標語の作者(水口真優子さん)は、「日々の時間と環境は、時には私を置いて行ってしまうほど早く過ぎ去ってしまうときもあるけれど、ほっと開いた本の世界は、私の帰りを待ってから進んでくれる……一人暮らしをはじめ、昔以上に本が好きになりました。」と述べています。



そこで、今年ももっと図書館に親しんで本を楽しんでほしいという願いを込めて、図書館で行っているサービスや行事、本の並び方の紹介を展示しました。

また今年、映画「ニューヨーク公共図書館エクス・リプリス」が宮崎でも上映され、ご覧になった方もおいでだと思います。映画の中で、図書館は本を貸すだけの場所ではなく、様々な可能性に満ちた場所であることが描かれていました。同様に、皆様に当館をいろいろな形でご利用いただきたいと思っています。ぜひ図書館に足を運んでみてください。



第35回 国民文化祭・みやざき2020 第20回 全国障害者芸術・文化祭みやざき大会プレイベント 「神々の面(おもて)〜面師 本井 繁意の世界〜」

宮崎県には神楽を行っている集落が約350あるといわれ、204の神楽の保存継承団体が存在しています。国内で、200を超える神楽の保存団体が存在している県は7県しかないことから本県は日本有数の神楽伝承地域といえます。

令和2年度には本県で国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が開催されます。多くの県民の方々に神楽が本県を代表する伝統文化であることを改めて知っていただくため、県立図書館では、11月2日(土)から12月15日(日)までの期間、本県在住の神楽面師 本井 繁意氏が制作した12の神楽面と神楽面制作に用いる道具や面の制作過程、県内の神楽一覧表を展示しました。

なお、今回の展示は多くの方々にご観覧いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



●展示品一部紹介



うと 烏兎様(西都市 尾八重神社)

尾八重神楽は、山間部で修行をする修験者の動きに似た所作があります。修験者は下界のことを知る手段として鳥を使鳥としていたことから、神々を先導する道案内の神と言われていました。



しゆくじん 宿神(西部市 湯之片神社)

湯之片神社を創建した岩崎家が氏神として京都の石清水正八幡から勧請した神です。尾八重神楽では8番『宿神』の舞で使用されます。この舞は、御神屋中央のクモの下に敷かれた御座の上でゆったりと厳かに舞われます。



たちからお みこと 手力雄の尊(宮崎市佐土原 巨田神社)

手力雄の尊が天の岩戸を開く舞に用いられます。面は、明治初頭に制作されたオリジナルを、正確に写して制作されました。眼球が青いのは、当初銅板で眼球が覆われていたものが、銅板が取れ、銅の緑青が残ったためと考えられます。



面制作用具

面の制作に用いる小刀や彫刻刀など。本井氏は、本来の面の特徴を正確に残すために、面の細部を計測して制作にあたっています。